

平成 30 年度 第 8 回 昭島市社会教育委員会議・要点録

開催日時／会 場 平成 30 年 11 月 22 日（木）午後 7 時 00 分～9 時 00 分 市役所 205 会議室
出席者 谷部議長、中村副議長、齋藤委員、長瀬委員、稲垣委員、濱田委員、
松本委員、二ノ宮リム委員、吉村委員
欠席者 佐伯委員
事務局 伊藤社会教育課長、吉村社会教育係長、来住野社会教育主事

1 開 会

＜配付資料＞

- 資料 1 1 月の社会教育関係諸行事について
- 資料 2 第 49 回関東甲信越静社会教育研究大会長野大会研修報告
- 資料 3 平成 31 年度社会教育関係団体補助金 事務局案
- 資料 4 第 30 期昭島市社会教育委員会議スケジュール

- ・昭島市月間行事予定表 12 月
- ・青少年委員だより 第 23 号
- ・あきしまの青少年 No. 251
- ・あきしまの青少年特集号 No. 252
- ・昭島市スポーツ推進委員だより 第 28 号
- ・文化協会会報 第 72 号
- ・エクセルを学ぼう チラシ
- ・これって本当？数字の不思議 チラシ
- ・第 55 回東京都公民館研究大会開催要項
- ・クラウドファンディングから学ぶ資金調達 チラシ

2 報 告

(1) 1 月の社会教育関係諸行事について（資料 1）

※事務局より資料の説明

(2) 平成 30 年度都市社連協第 2 ブロック研修会について

議 長 10 月 21 日（日）に国立市公民館で行われた第 2 ブロック研修会に参加された方から
ご報告いただきたい。

委 員 今年度の都市社連協の統一テーマ「知の共鳴～『学ぶこと』『つながること』その先
へ」、そして、第二ブロック研修会は「しょうがいをこえて生きる」というテーマだっ
た。国立市公民館のコーヒーハウスの取組について伺い、関わっているスタッフとメン
バーも交えてグループワークを行った。感想としては、しょうがいのある方と普段話を
する機会があまりないので、新鮮だった。同じテーブルの方は、しょうがいを感じさせ

ることなく、しっかりと学ぶ意志を持っていらっしゃる方だった。一般企業においては、しょうがいのある方の就労支援の難しさもあるところだが、こうした機会を得て社会とつながる足掛かりとなっているようだ。そういう方たちと接するいい機会だった。また機会があれば積極的に参加したい。就労支援は難しいと思うが、余暇の部分での関わりを持てたらと思う。

委員 普段、しょうがいのある方と面と向かって話す機会が少ないと実感した。この取組は、しょうがいのある方の社会参加の機会になっていると感じた。各自治体ではどのようなになっているのだろうか。しょうがいの程度によって受け入れ方は違ってくるのではないか。社会教育委員としての視野を広げるきっかけになった。

委員 非常に難しいテーマだった。家族にしょうがいのある方を持つ人たちにとって、コーヒーハウスのような場所は、当事者と共に参加できるいい場だと思った。昭島でもあいぽくなどで就労支援をしている。しょうがいのある方が外に出られる機会に支援できればと思う。コミュニケーションもうまくできればよいと思う。

委員 しょうがいのある方々とお話をして、コーヒーハウスの活動はとても活発で、楽しまれているように感じたが、特別支援学校へ行った場合、その時点で地域から切り離されてしまうので、そもそも地域とのつながりができにくく、その高等部を出た後就労支援施設に行った場合、さらに地域から離れるということが起きてしまう。コーヒーハウスあるメンバーの方は、国立在住であるのに、学校や就労先が他の地域で、たまたまその人たちからの紹介でコーヒーハウスを知り、ようやく地元で遊べる場所を見つけたとおっしゃっていた。地元においてそういう人たちがつながりを作っていくことは難しいことなのだった。話は変わるが、国立市の資料が入っていた封筒の表に、点字で「国立市」の表記があった。そういう配慮も素晴らしいと感じた。

委員 グループごとに分かれて話し合ったことで、他市の活動状況を知ることができた。そこでしかわからない内容も話していただき、ためになった。ボランティアに参加されている方は国立市近隣の大学生や社会教育関係者が多いのかと思ったが、そうではない人たちの関わりも多いようだった。社会教育に触れる機会として、若い人たちも参加しやすい雰囲気があるのではないかと思った。いろいろな世代の方が参加することで、継続した活動になるのだろうと思った。わざわざ場を準備しなくてもふらっと立ち寄れる場があるというのはいいことだ。

議長 各市によって取り組み方が異なると思うが、社会教育のほか福祉の領域とも連携することはよいと思った。先日の長野大会でも、大会の企画に際し社会福祉協議会と連携したという話も聞いたところである。社会教育の流れがそのように移行しているのではと感じたところである。文科省の組織改編でも名称の変更もあったので、社会教育と福祉の領域がどのように関わっていくのか、国の方向性も知りたいところだ。

委員 知的しょうがいのある方々と接するのは、意識しないと難しいところがあると思う。私は社会福祉協議会のメンバーでもあるので、様々な情報を得る。一般の市民にできることは、しょうがいのある方の就労支援施設等で作られている商品を消費することで支えるということだと思う。そういう施設を宣伝することも大事だ。サロン活動の中で、

ある就労支援施設のパンを購入している。施設からは、定期的に商品が売れるのでありがたいと言ってもらえる。人が集まる場所同様、就労の場も続いて欲しいので、市民活動の力で支えてもらえたらと思う。

(3) 関東甲信越社会教育研究大会（長野大会）について（資料2）

議長 11月15日から16日に行われた長野大会の報告をする。高齢化や海外からの移住者の増加から、社会教育は地域の実情に応じた展開が求められるという話が印象的だった。今後、社会教育と福祉の領域との連携が重要になってくるとの話だった。第4分科会「社会教育委員の役割と社会教育」に参加した。コーディネーターの重要性、挨拶運動などでの人とのつながりの重要性について語られた。社会教育委員としての活動がどうあるべきか深く考えさせられた。

委員 パネルディスカッションでは、高齢化によって人手が増えるという考え方などが話され、同時進行で話の流れを模造紙にまとめていくという事が行なわれ、大変良かった。今回の大会では、福祉分野との連携が強調されており、その一環として県知事が手話で挨拶され、要約筆記も行なわれていた。2日目、第5分科会「未来の地域づくりと社会教育」に参加した。我々社会教育委員が、これから特に子どもたち世代にどう働きかけていくか、社会教育そのものをどう守っていくかについて事例発表があった。内容を紹介しますと、鹿沼市から「かぬまかるた」を用いたかるた会の事例、岡谷市から社会教育委員による毎年テーマに基づいた提案書の提出と、教育委員との懇談という事例、大桑村からは社会教育委員による村民集会の事例だ。グループにわかれての議論では、子どもの間に地域とつながる経験が必要だが、現代の子どもたちを取り巻く社会構造にも問題があるのではという意見が出た。詳細は配付資料のとおり。すでに昭島市でも取り組まれているような事例だと感じた。

(4) その他

委員 10月27日（土）開催の、都市社連協第5ブロック研修会に参加した。配付の資料のとおり。テーマは「人生百年時代 地域への学び『旅立ち』への視座」。伝統文化の継承、人権についてなど、様々な角度からのお話があった。

3 議題

(1) 平成31年度社会教育関係団体補助金事務局案について（資料3）

議長 社会教育関係団体の補助金は、昭島市社会教育関係団体補助金交付要綱に基づき、「社会教育委員会議の意見を聞いて、補助金交付の内定を行い、補助金額等を内示するものとする。」となっていることから、事務局案についてご意見があればお願いしたい。

※意見なし、承認

(2) 第30期社会教育委員会議の進め方について（資料4）

・今後の研修会等すでに決まっているものについての日程確認

- ・社会教育委員会議の取組「あきしま会議」について
- ・第30期のテーマについて
次回会議までに、各所属団体等での「課題」を持ち寄る。
(事前に事務局へメールで送付)

次回

12月20日(木) 午後7時より 昭和会館(1階休養室)

1月24日(木) 午後7時より 市役所2階205会議室

<昭和会館>昭島市松原町1-2-25

